

# 呉錦堂を語る会通信

NO.5 May. 2012

発行 兵庫県明石市北朝霧丘2-8-34

橘 雄三 方「呉錦堂を語る会」

Tel. 078-911-1671

編集 「呉錦堂を語る会通信」編集委員

発行日 2012.5.1



## 聞き取り、小東野開拓百年史（2）

《小東野墓地の遠祖供養塔》《小東野に入植した人たち》《旧小東野、新小東野》ほか  
聞き取りの第2回は、4月9日と23日、木戸勝清さんを職場の雄岡病院に訪ね、お話をお聞きしました。  
また、4月9日は、話のあと、村の水路を案内していただきました。（編集委員 橘雄三）

### 《小東野墓地の遠祖供養塔》

橘：先日、初午のお祭りの時、木戸さんに小東野墓地を案内していただきました。その際、遠祖供養塔についてお聞きしました。お話では、この供養塔の下に、小東野開拓にやって来て、病気等で倒れた中国人も眠っているとのことでしたが、そのあたりをもう少し詳しくお聞かせ願いたいのですが。

木戸（下の写真、中央）：現在の墓地は、永年、個人名義の土地でした。土地所有者からの要望もあり、この地を買収し、平成3年、村有墓地とする事業がスタート



いたしました。当時、  
一帯は松林  
でした。ま  
ず、雑木の  
撤去作業、  
続いて整地  
作業が始ま  
りました。  
作業中、シ

ョベルカーが盛り土を崩そうとして直径2尺ほどの大きな甕を見つけました。甕の口を塞ぐように松の角材が縦横に並べられ、その上、重しに、鬼瓦のような大きな瓦が置かれていました。瓦をのけて、松の角材を取り払うと、中から数体の人骨が出てきました。3体までは確認できました。骨には焼け焦げの跡がありました。この焦げ跡のある人骨を見て、人々は、いろんなことを言いました。

「小東野の開墾が進んでいた時期、松林の中で死体らしきものを焼いている人たちがいた、という話を聞いたことがある」とか、「当時、みんな、土葬だった。こんな甕に遺骨を入れて、葬るとするのは中国からやってきていた人たちに違いない」、「そういうと、この場所は、以前、K家の墓があったところで、Kさんは呉錦堂と親しかった」等々です。これらの話の真偽は、

定かではありません。

平成10年、この墓地ができあがった時、無縁仏は一

区画に集め遠祖供養塔を建てました。何らかの縁（えにし）につながる人たちのな



です。無縁供養塔とはしませんでした。甕に葬られていた人たちもここに眠っています。（上の写真は遠祖供養塔。左端、奥に見えるのが六角堂東屋）

墓地が出来上がって、平成12年だったのですか、中国風の東（あずま）屋を建てました。呉錦堂さんが開墾してくださって、そんな（前述のような）話も聞いていたので、はるばる中国からやってきて、この地で倒れた人たちの霊を慰める、そんな気持ちからでした。これは私の個人的な心の問題ですが・・・。

### 《小東野に入植した人たち》

橘：山本富恵さんのアルバムにあった一枚の絵に、「大正7年頃から入植が始まりました。遠い所から来た人、近くの人では古神（こがみ）、勝成（よしなり）、東（ひがし）部落から、分家として花婿、花嫁で入居されました」とあります。小東野への入植は、遠くからの人もあったようですが、近くからが多かったのでしょうか。



（裏に続く）

木戸：そうですね。初午のお祭りのとき呉さんと話されていた大西さんはじめ、小東野で大西といえば古神の出です。竹中姓も古神出身です。今は無くなりましたが、坊池（ぼういけ）は東の出です。その他、比較的近い田井（たい）、五百蔵（いおろい）の出もあります。

橘：木戸さんはどちらのご出身ですか。

木戸：淡路です。淡路出身は私の祖父母だけです。

橘：山本富恵さんのアルバムの別の絵に、「大正7年12月、私が9歳の冬でした。武庫郡山田村衝原から来たのです。冬とは思えぬ春のような小雨の降っている暖かい日でした。四里の道を父がひく車の後についてきました…」とあります。これは、山本富恵さんご自身のことですが、武庫郡山田村衝原（つくはら）というと、かなり遠いですね。

木戸：吞吐ダムのところですね。山本さんが衝原の出身だったのですね。それで謎が一つ解けました。

橘：えっ！どういうことですか。

木戸：小東野に電気をひくときの話です。戦後すぐの

ことでしょうねえ。

「電柱にする杉の丸太を衝原まで馬力を引いて取りに行った」という話を聴いています。杉の丸太なら三木なら近いのにどうしてそんな遠いところまでとっていました。お金の問題なんですわ。衝原には、山本さんの身内がいて、安くしてもらえたのでしょうか。

《旧小東野と新小東野》

橘：山本さんのアルバムの最初のページに、「私が幼い頃、小東野と言うと、旧小東野か新小東野かとよく聞かれたものです」という文章がでています。新小東野は、新しく開墾されたこの辺りのこととわかるのですが、当時、旧小東野とは、どこを言ったのですか。

木戸：呉錦堂さんの開墾が始まる前から、今の175号線沿いから西に、六軒屋と呼ばれるところがありました。今は多くなっていますが、最初、竹内、小池、水沼、松村、木戸、西馬の六軒だったのでそう呼ばれたのです。旧小東野とは、このあたりのことです。

以上が木戸さんからの聞き取りです。なお、4月9日は聞き取りの後、村中の水路を案内していただきました。



### 木戸さんに案内していただいた小東野村の水路



呉錦堂池から続く水路



神出支線の分水口。右の細い流れが小東野池に入る（これは呉錦堂池から来た流れではない）。